

東京2020パラリンピックへの取り組み

南会津町 ∞ アルメニア共和国

大会ホストタウン
シリーズ5

松沢小の6年生が アルメニアの童話を朗読！

2019年は、アルメニアの国民的作家「ホヴァネス・トゥマニャン」が生誕してから150年。これを記念して、世界中の小学生たちに「ホヴァネス・トゥマニャン」の童話の1つ『嘘つき』を現地の言葉で朗読してもらい、その様子を撮影した動画を公開するというプロジェクトが、アルメニア・ユネスコ委員会とトゥマニャン博物館の主導で進められています。

このたび、南会津町がアルメニア共和国のホストタウンに登録されたことから、駐日アルメニア共和国大使館からの依頼を受け、松沢小学校6年生にプロジェクトに参加していただきました。

慣れない言葉を必死に覚え、丁寧に朗読した子どもたち。ときには童話に登場する役になりきるなど、小学生最後の良い思い出となる素晴らしい発表になりました。

撮影した動画は、世界各国から寄せられた動画とともに、3月下旬にトゥマニャン博物館のイベントで公開されるほか、同博物館のホームページでも公開される予定です。



編集後記

- ◆このたびの人事異動で、広報担当を「卒業」しました。
- ◆4年間勤務した議会事務局では「議会日より」を16号、続いて3年間勤務した総合政策課では「広報みなみあいづ」を36号、通算7年で52号の広報紙を編集してきました。
- ◆振り返ると、毎号を生み出す苦しみは多々あったものの、一方で「今月号はどうしようかな」とワクワクしている自分もいて、楽しみながら編集することができました。
- ◆一眼レフカメラに触れたこともなかった私。52号もの紙面を編集するなかで、イメージどおりの写真を撮影できずに、もどかしさを感じたこともありました。
- ◆自分の理想とする「一枚」を撮るためにさまざまなシーンの撮影方法を学び、数打ちや当たるの精神も相まって、7年間で約4万8千枚もの写真を撮影。一瞬を切り取る苦勞も、今では良い思い出です。
- ◆そして一番の思い出は、やはり平成から令和へと時代が移り変わる、節目の広報紙に携われたことです。平成最後の広報紙では、町が歩んできた約13年の主な出来事を、時系列で8ページにわたり編集することができました。
- ◆町の広報紙は、町民と行政との架け橋です。私は本号をもってバトンを譲りますが、これまで多くの方々を支えられながら業務を担えたことに深く感謝するとともに、これからも町の広報紙のご愛読を心よりお願い申し上げます。
- ◆長い間、ありがとうございました。

担当 舟木浩隆